

横地分類

「移動機能」、「知的発達」、「特記事項」の3項目で分類し、以下のように表記する。

例：A1-C, B2, D2-U, B5-B, C4-D

〈知的発達〉					
E6	E5	E4	E3	E2	E1
D6	D5	D4	D3	D2	D1
C6	C5	C4	C3	C2	C1
B6	B5	B4	B3	B2	B1
A6	A5	A4	A3	A2	A1
簡単な計算可 簡単な文字・数字の理解可 簡単な色・数の理解可 簡単な言語理解可 言語理解不可					
〈特記事項〉 C: 有意な眼瞼運動なし B: 盲 D: 難聴 U: 両上肢機能全廃 TLS: 完全閉じ込め状態					
寝返り不可 寝返り可 座位保持可 室内移動可 室内歩行可 戸外歩行可 (移動機能)					

健常乳児と同様に、知能レベルとは別に高いアウエアネスは持っていることが多いと私は考えます。ただし、脳障害によりアウエアネスが低下している人もいます。例えば、成人が右半球の脳梗塞を起こし、本人の左側の視聴覚刺激に反応しない状態になることがあります(半側空間無視)。小児期脳障害でも少数の報告があります。その機序はまだ確定していませんが、アウエアネス障害説は有力な仮説です。

重症心身障害児者に対し、当然伝わっていると思ったことが伝わっていない場合もあります。アウエアネスが問題とならなかったか、気づいたがそれ理解できなかったかを区別しなければなりません。後者はその理解力(知能)の問題となり、前者は、感覚受容に障害があるか(例えば、中枢性視覚障害のため指さしの意味がわからない)、アウエアネスに障害があるかになります。アウエアネスの障害では、伝え方の違いにより伝わり方に大きな違いが出てきます。

だいちの

日常活動

鈴木 佳須美

この違いを知ることが、その人のアウエアネス障害を知る出発点になります。アウエアネスに障害があれば、気づきの負担を最小にした伝え方を工夫すべきでしょう。例えば、半側空間無視の人には、右から声を掛け、見せたい物は右側に配置するといったことです。気づきの負担は聞き取りに顕著だと思います。アウエアネスの障害があれば、対面していない方向からの声掛けはやめるべきです。

Aさん(横地分類B6-D)は、職員がメモを取ったり、日常活動で手元で何か作業をしたりしているとじっと注目しています。手元で行われる小さな動きに興味があるようです。

職員が声をかけながらAさ

んと顔を合わせ紙にペンを置くと、Aさんは紙に顔を近づけて線が描かれるのを待っているようです。紙の左から右に線が引かれていくと、Aさんはその動きを追うようにして見ていました。勢い良く線が引かれていくペンの動きに注目している様子でした。そして一筆書きで星型に描かれたり、絵描き歌のリズムで線が引かれていくときは違いくと集中して見ていました。線が描かれていくことで一定ではなく、ペンの動きが一定ではない動きにAさんはおもしろさを感じているようでした。次に、デザイン定規を使って色々な模様が描かれていくと、Aさんは定規に合わせて描かれていくのを見ています。定規の角度によって職員の手元に隠れて描かれているのが見えにくくなると、Aさんは顔を紙へ近づけて覗き込むように見ていました。直線ではなく定規に合わせてギザギザの線が引かれていくと、Aさんの表情が緩み始めました。直線の時と描かれていくスピードや、ペンの動きが変わったことに注目しているようでした。そして定規を外してできた模様が見えた時にはAさんは声を出して笑って

ました。定規を外して模様が現れたことに面白さを感じているようでした。また、職員が墨をつけて筆を整えて半紙に描く準備をしていると、Aさんは興味深そうに覗き込んで見ていました。描かれるまでの間、次に行われることを期待しているようでした。筆で直線が描かれ、最後にはねたりはったりするとAさんはそれをじっと見ていました。紙に墨がついていたり、筆が動いたりすることに興味があるようでした。線が描かれていく時は目を細めて見ていて、最後のはねやはらいでぐっと集中して顔を近づけて見ていました。はねやはらいに入る前に筆がゆっくりと動いて動きが止まると、Aさんはじっと動きを止めて次を待っているようでした。

